

2019年度派遣（8月23日～9月17日・3週間）

ドイツ カッセル大学

環境学部2年 小阪奈央

私は、このドイツの研修を通してたくさんの素晴らしい経験ができました。研修中に再生エネルギーや持続可能な開発に関して深く学ぶことができました。フィールドトリップに行く前にドイツでの環境配慮などに関する知識を取り入れることにより、実際に現地に行った際に理解が深まりました。またフォルクスワーゲンの工場や再生エネルギー村を自分の目で見て、実際にそこで働いている人々の話を聞き、ドイツの環境に関することを学べただけでなく社会学習にもなり、とても良い経験となりました。これらのドイツで得た知識や経験を日本で環境学などを学ぶ際にも生かしていきたいです。

またドイツの大学での授業やホームステイを通して学んだ「自分から積極的に発言していくこと」を日本でも実行していきたいです。相手の問いかけに対して無言になったり、曖昧な返答をしたりせずに自分の意見をしっかり伝えることを頑張っていきたいです。これからもドイツの文化やドイツの良いところを友達や家族、周りの人たちに発信していきたいと思います。



経営学部2年 文元 瑞葵

私がこのプログラムで目標としたことは、ドイツを知ることでした。モノづくりや環境方面ではドイツは日本に比べてかなり進んでいます。そのことについて、たびたびニュースなどのメディアで取り上げられているところを目にして、いつかは行ってみたいと以前から思っていました。また、今回のプログラムは自身の英語力を鍛えるとともに、ドイツの環境や経営について学ぶことができる内容となっていたことはとても魅力的でした。その中で最も興味があったのはフォルクスワーゲンの見学でした。世界規模の競争力がある海外企業の工場を視察し、話を聞くことができるのは滅多にない機会でした。また、博物館や世界遺産公園などカッセル地方に関する歴史や特徴、経営資源なども学びました。すべて英語で行われるため、英語を理解し、使うことの難しさを身をもって経験できたことも良い学びとなりました。

今回の海外研修を通して、ドイツの環境と経営を学ぶことができたことにとても満足しています。また、授業参加において受け身ではなく「自分たちから学ぶ」というドイツの学習文化の違いに触れて、能動的な学習をしていく大切さの気づきを与えられたことも恵みとなりました。この経験を残りの大学生生活に活かし、さらなる自己成長に繋げていきたいです。

